

## 「行」を整えよう

これまで四回にわたって、平仮名・片仮名の構造と整え方の基本的な解説をしてきました。最終回は、実際に授業の中で黒板に文字を書き連ねる際の「行」の整え方について具体的に説明します。

## 1 多字数を整える

学校ではよく「整理・整頓」ということが言われます。この言葉は、文字を書くうえでもたいへん重要な要素を含んでいます。

板書をするときには、文字を一文字だけ書いていくことはほとんどないでしょう。何文字もの文字を連ねて語や文章を書いていきます。そのとき、文字をそろえて書いていくことで、より見やすく、読みやすく、整った板書の見え方に変化していきます。

例えば、本棚を整理していくときに、同じ大きさの本、文庫本なら文庫本だけ

を並べていくと、本棚はすっきりと整理・整頓されてきますね。このような感覚は、文字をそろえていくことに似ていると思っています。

教科によって、縦書き・横書きと、板書にも変化が求められますが、ここではまず国語を中心に考え、縦書きを例に説明していきたいと思えます。

## 2 「中心線」をそろえる

具体例として、授業でよく使用される「まとめ」という言葉で、整え方を説明してみます。縦書きで重要となることは、「中心線」です。平たく言い換えるならば、

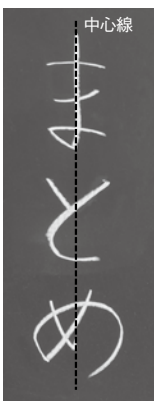


図1

まとまりが捉えにくくなります。字間・行間をそろえることで、読みやすく、意味をつかみやすい文を書くことができます(図2左)。

## 4 漢字と仮名の大きさを変える

もう一つ、大切なのは、漢字と仮名の大きさのバランスを考えることです。一般的に、平仮名・片仮名は漢字より少し小さめに書くと、全体のバランスが取れ、整って見えるようになります(図3左)。通常の板書では、漢字仮名交じりの文を書くことのほうが多いので、これは、特に意識しておくといでしょう。

## 5 「板書力」とは

これまで五回にわたって基本的な板書の技術について解説してきましたが、先生方が整った読みやすい板書をするには、生徒にとってたいへん重要なことです。

どんなに大切なことが書かれていても、読みにくければ生徒たちの関心も薄れてしまいます。また、板書されたことをノートに書き写すとき、板書の書き方そのものが、生徒の書字の「お手本」となります。

内容だけでなく、こうした見やすくわかりやすい書き方の技を磨くことも総合的な「板書力」の向上につながっていくといえるでしょう。

図2

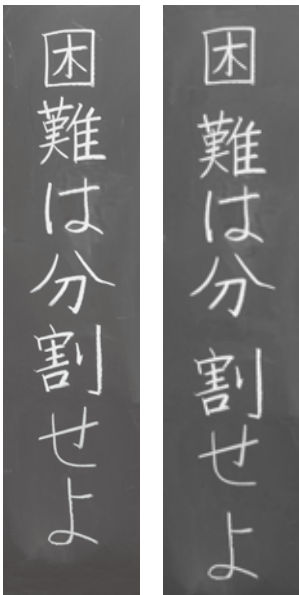


図3

